



(題字 時澤 貢 学長)

第424号

(平成12年4月号)

4月のトピックス

◇10日 平成12年度富山大学入学式を挙



▲ 告辞する時澤学長（左上），ステージの様様（中央），新入生の様子（富山市芸術文化ホール）

目 次

学 長 告 辞	3	◆ 事務組織の再編整備を実施	23
関 係 法 令	5	◆ 平成12年度新任教員説明会を実施	25
諸 会 議	5	◆ MEX金沢2000に出展	25
学 事		◆ 北信越地区国立大学図書館協議会総会を開 催一附属図書館一	25
◆平成12年度公開講座の実施計画を決定	6	◆ 海外渡航者	26
人 事 異 動	7	◆ 外国人来訪者	26
学 内 諸 報		職 員 消 息	
◆ 副学長に能登谷工学部教授，小澤人文学部 教授が就任	18	◆ 住所変更	27
◆ 教育学部附属小学校長に安藤教授が，中学 校長に清水教授が，養護学校長に中井教授が， 幼稚園長に原教授がそれぞれ就任	19	◆ 新任者住所	27
◆ 富山大学名誉教授称号記授与式を実施	21	◆ 訃 報	30
		主 要 行 事	30
		資 料	
		◆ 平成12年度入学者数一覧	33



▲先輩学生がサークル加入を勧誘（左），入学式式場前にて記念撮影（右），（4月10日）

学 長 告 辞

平成12年度富山大学入学式を盛大に挙行

— 学部学生1,580人，大学院生326人，計1,906人の入学を許可 —

平成12年度富山大学入学式が，去る4月10日（月）午前10時30分から富山市芸術文化ホールにおいて挙行されました。

式に先立ち，富山大学合唱団により，「富山大学歌」と「Alma Redemptoris Mater」の合唱があり，式場を厳粛な雰囲気させました。

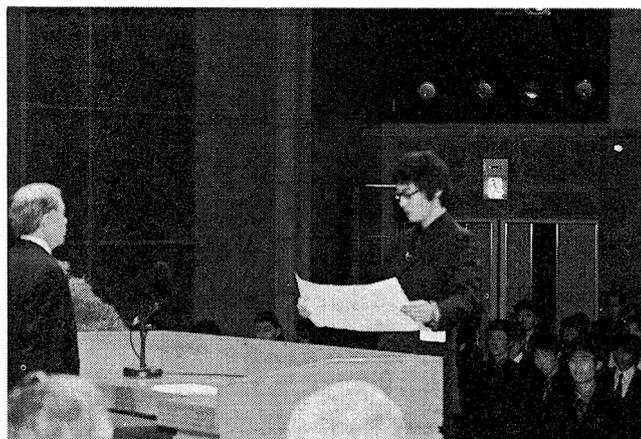
式は，関係部局長が列席する中，初めに時澤学長が，学部学生1,513人，3年次編入学生67人，大学院（修士・博士前期課程）生304人，大学院（博士後期課程）生22人，計1,906人（外国人留学生55人を含む。）に入学許可を宣言し，「各自が課題を設定・追求し，能動的に取り組むことで個性に輝く学びの成果が得られる。各自の生き方について思索し，精神の自立を図ってほしい。初心を忘れることなく，勉学に精励し，人生の有意義な時を過ごされたい」旨告辞しました。

これに対し，人文学部人文学科森川 卓君が新生を代表して「入学生一同は，在学中，学則を守り，自己の研鑽に努め，さらなる未来への展望を広げるとともに，より一層の学識を深めるよう努力します。」と宣誓し，無事に式を終了しました。

また，式終了後，富山大学フィルハーモニー管弦楽団

が「威風堂々」（エルガー作曲）及び「ラデツキィー行進曲」（ヨハン・シュトラウス作曲）を演奏し，続いて，富山大学ギター・マンドリンクラブが「Let it be」及び「My way」を演奏し，新入生を和ませました。その後，学部学生に対しては，教養教育及び学生部・保健管理センターのオリエンテーションが実施されました。

なお，式場周辺には，各サークルの学生が多く集まり，やや強い風が舞う中，新入生に加入を勧めていました。



▲ 宣誓する人文学部の森川 卓君

入学式における学長告辞（全文）

本日，ここに平成12年度富山大学入学式を挙行いたしますことは，本学にとって誠に喜ばしいことでもあります。留学生55名を含む総数1,906名におよぶ入学生の諸君，ご家族の方々に心からおめでとうとお祝い申し上げます。

富山大学は人文学部，教育学部，経済学部，理学部，工学部の五つの学部からなり，人文・社会系と自然科学系を有する総合大学です。また，人文科学，教育学，経済学の大学院各研究科修士課程，理学と工学を融合した

大学院理工学研究科博士課程が設置されています。

只今，入学許可をしました，学部学生は1,513名，3年次編入学生は67名，大学院修士課程・博士前期課程は304名，大学院博士後期課程は22名であり，総数1,906名の極めて優秀な新しい仲間を迎えることができましたことは，私共教職員はじめ本学関係者の大きな喜びとするところであります。富山大学キャンパスには，学生，教職員合わせて約10,000名が活動しており，大学は大きなコ

コミュニティとして、その使命を果たすべく日夜努力しているところであります。

大学は、教育・研究と社会貢献を三つの機能として「学問」をすところであります。学問とは、「自ら問いかけ学ぶことにより、絶えず問題意識を持ち課題を追求し、幅広い知識の知恵化をはかり自ら身につけること。」であります。その結果、優れた人格の形成をもたらし、専門能力を具備した豊かな人間性と創造性を培い、これが人生の継続的なエネルギー源となり、自らの表現力、思考力、創造力として社会貢献につながると考えます。そのため、教員は、諸君に対し絶えず新しい知識を教授し、興味を持たせ能力を引き出すために、研究と教育を表裏一体として、教える内容は研究を伴い、絶えず発展的な教育方法・情熱をもって教授し、学生の付加価値を高める努力をしております。

富山大学は、平成11年3月、21世紀を拓く地方に位置する国立大学としての理念を明確にし、五つの柱からなる大学の基本理念を決定しました。

- 一、生命を尊重する共生の精神
- 二、社会と共栄する学術研究の推進
- 三、豊かな人間性と創造性を培う教育
- 四、地域社会や国際社会への貢献
- 五、たゆまざる自己啓発・自己改革

であります。

本学の一人一人がこの新たな理念のもとに結集し、その目的達成に向けて日々精進しているところであります。

諸君は、これまでの初等・中等教育等において、受け身で知識の修得を中心とした勉学をしてきましたが、大学ではさらにそれらの知識をベースとして各自が勉強の課題を設定・追求し、能動的に取り組み自らの思考によって個性に輝く学びの成果が得られることを期待しています。そこで、難問に出合ったときは、段階を踏んで色々な情報を積極的に入手すると共に、過去の学習によって

構築した自分の知識をベースとし、当てはまりそうな解決方法を探し求めます。この時、大切なのは日頃から色々なことに興味と疑問を持ち、ねばり強い課題の追求意欲をもち続けることで思考すれば、解決に到達できると思えます。

また、諸君は勉学と共に一人一人の生き方についても、時間をかけて自ら思索し、精神の自立を図っていただきたいと思えます。私は人の「幸せ」について考えておりますが、「幸せ」とは、未来に対して希望する「願い」と、自分を越えた大いなる存在を発見する「感謝」の生涯にわたる「生きがい」の繰り返しであると思っております。

新入生の諸君、本学には約200名の留学生が学んでいます。留学生の皆さんとの交流により、国際感覚を身につけてください。若いときに異文化に触れることは得難い体験となります。課外活動などを通じ、協調性を育て、体も心も大いに鍛えてください。諸君にとってかけがえない青春時代をどのように過ごすかが一人一人に問われています。また、大学で良い友人、師にめぐり合うことが諸君の人生にとって大切なものとなります。本日このように諸君に入学の挨拶ができることも、長い人生の中での一人一人の「出会い」であります。この出会いを大切にし、初心を忘れることなく若い力を勉学に精励し、人生の有意義な青春時代を過ごされることを切望します。

幸い富山県は、豊かな生活環境において国内有数であり、立山連峰、日本海など山と海に囲まれ、自然環境にも恵まれており四季を通じての興味を膨らませ、快適で健康な学生生活をおくられることを付言して告辞とします。

平成12年4月10日

富山大学長 時 澤 貢

関 係 法 令

(法 律)

○産業技術力強化法(44)(平成12.4.19官報号外第78号)

○教育公務員特例法等の一部を改正する法律(52)(平成12.4.28官報号外第85号)

(政 令)

○産業技術力強化法の施行期日を定める政令(205)(平成12.4.19官報号外第78号)

○産業技術力強化法施行令(206)(同上)

(省 令)

○産業技術力強化法施行規則(通産99)(平成12.4.19官報号外第78号)

(規 則)

○人事院規則9-8(初任給,昇格,昇給等の基準)の一部を改正する人事院規則(人事院9-8-41)(平成12.4.19官報号外第78号)

○人事院規則9-13(退職者の給与)の一部を改正する人事院規則(同9-13-2)(同上)

○人事院規則11-4(職員の身分保障)の一部を改正する人事院規則(同11-4-3)(同上)

○国立大学教員等の研究成果活用企業の役員等との兼業

(同14-18)(同上)

○国立大学教員等の株式会社等の監査役との兼業(同14-19)(同上)

○人事院規則9-49(調整手当)の一部を改正する人事院規則(同9-49-15)(平成12.4.28官報第2860号)

○人事院規則9-55(特勤手当等)の一部を改正する人事院規則(同9-55-51)(同上)

(告 示)

○教育職員免許法施行規則第14条の2及び第17条の2の規定により,修得した単位を最低単位数に含めることができる短期大学の専攻科を定める件の一部を改正する件(文部74)(平成12.4.13官報第2849号)

○日本育英会法施行令の規定による試験所,研究所又は文教施設として指定した件(同75)(平成12.4.18官報第2852号)

○日本育英会法施行令の規定による試験所,研究所又は文教施設として指定した件等の一部を改正する件(同76)(同上)

○平成12年度学校図書館司書教諭講習実施要項を定める件(同82)(平成12.4.25官報号外第82号)

諸 会 議

第1回将来計画委員会(4月5日)

(審議事項)

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第2回将来計画委員会(4月14日)

(審議事項)

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第3回将来計画委員会(4月17日)

(審議事項)

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第1回事務協議会(4月18日)

(協議事項)

(1) 平成11年度学位記授与式及び平成12年度入学式について

- (2) 文書の管理について
- (3) 省エネについて

第1回大学教育委員会(4月19日)

(審議事項)

- (1) 教養教育副実施機構長の選出について
- (2) 教職科目専門委員会の設置について
- (3) 学務事務電算化専門委員会の設置について
- (4) 「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」(答申)について

第1回部局長会議(4月21日)

(審議事項)

- (1) 学生の除籍について
- (2) 平成12年度海外研究開発動向調査に係る研究者の

派遣候補者の推薦について

- (3) 総合情報処理センターの助手が任用できない状況
に対する措置について

第1回評議会（4月21日）

（審議事項）

- (1) 富山大学名誉教授称号授与について
(2) 富山大学の基本目標と課題について

第1回自己点検評価委員会（4月21日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度報告書の編集について
(2) その他

第1回学生生活委員会（4月24日）

（審議事項）

- (1) 学生生活委員会課外活動部会及び学生生活委員会
福利厚生部会細則の確認並びに構成人数について
(2) その他

第1回国際交流委員会（4月28日）

（審議事項）

- (1) 平成12年度国際交流活性化推進事業による各種事
業の選考について
(2) 平成11年度国際交流事業基金決算について
(3) 平成12年度国際交流事業基金予算（案）について
(4) その他

学

事

平成12年度公開講座の実施計画を決定

平成12年度富山大学公開講座は、次のとおり実施することになりました。

区分	講 座 名	開設期間	開講時間	定 員
教 養 講 座	企業・市民の経済活動と法	6月1日～ 6月29日	10時間	30名
	デジタル時代の保育を考える — 一手仕事とコンピューター —	6月1日～ 7月6日	9時間	40名
	パソコン教室（Ⅰ）Windows 入門	6月3日～ 7月1日	15時間	20名
	新しい時代の幕開け — 新千年紀によせて —	6月10日～ 7月8日	15時間	30名
	教師のための情報教育実践講座	7月1日～ 9月30日	9時間	30名
	パソコン教室（Ⅱ）表計算ソフトウェア	7月3日～ 7月7日	10時間	16名
	シニアから始めるインターネット講座	7月10日～ 7月14日	10時間	30名
	共に生きる	8月9日～ 8月10日	10時間	40名
	地球環境の危機と人間活動	8月19日～ 9月2日	8時間	50名
	パソコン教室（Ⅲ）画像処理とデスクトップ・パブリッシング	8月21日～ 8月25日	10時間	16名
健 康 ス ポ ー ツ 講 座	ジョギング・ランニングコース	10月2日～ 10月27日	20時間	20名
	ゴルフ（初級者）コース	8月21日～ 8月29日	15時間	20名
	親子スキー教室	1月27日～ 1月28日	15時間	20組
講 体 座 験	見えないものを観る	7月26日～ 7月27日	12時間	40名

（注）各講座は、県民カレッジとの連携講座になっています。（ただし、体験講座「見えないものを観る」は除く。）
問い合わせ先；生涯学習教育研究センター・総務部総務課大学開放係（内線6956）

人

事

異

動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容	
採 用	12. 4. 1	端 場 純 子		文部事務官 (附属図書館情報サービス課)	
	"	高 山 恭 一		文部事務官 (経済学部)	
	"	喜多野 一 幸		文部技官 (工学部)	
昇 任	12. 4. 1	奥 野 芳 明	学生課課長補佐	明石工業高等専門学校学生課長	
	"	竹 下 義 美	工学部学務係長	高岡短期大学学生課専門員 (就職指導担当)	
	"	絹 石 達 也	人文学部・理学部経理係経理主任	富山医科薬科大学教務部学生課専門職員	
	"	北 角 政 信	経理部主計課監査係監査主任	体育局生涯スポーツ課登山研修所庶務係長	
	"	新 井 健 二	教育学部学務係教務第一主任	高岡短期大学学生課学務係長	
	"	伏 喜 俊 至	経理部主計課総務係総務主任	富山工業高等専門学校会計課総務係長	
	"	藏 川 一 正	人文学部・理学部庶務係庶務第一主任	富山商船高等専門学校庶務課人事係長	
	"	笹 川 郁 夫	東京大学附属図書館総務課長	附属図書館事務部長	
	"	中 島 省 吾	大臣官房文教施設部指導課監理室専門職員	施設課長	
	"	大 内 知 行	東京農工大学学生課課長補佐	学生部入試課長	
	"	桶 喜 一	経理部主計課課長補佐	経理部契約室長	
	"	吉 沢 誠	経理部主計課総務係長	経理部主計課専門員 (法規・監査担当)	
	"	牧 野 秀 應	経理部主計課司計係長	経理部経理課専門員 (事務情報化推進担当)	
	"	野 尻 謙 二	施設課機械係機械主任	施設課機械係長	
	"	池 田 真紀美	工学部	経理部経理課収入係主任	
	"	桐 井 久美枝	人文学部・理学部	経理部経理課給与係主任	
	"	山 田 浩 司	経理部経理課	経理部契約室契約第一係主任	
	"	竹 内 由 利	庶務部企画室	学生部学生課教養教育係主任	
	"	高 安 勇 吉	工学部技術専門職員	工学部技術専門官	
	"	高 瀬 博 文	工学部技術専門職員	工学部技術専門官	
	"	高 村 浩 之	工学部	工学部技術専門職員	
	転 任	12. 4. 1	吉 野 義 光	施設課機械係長	富山医科薬科大学業務部施設課機械係長
		"	村 田 美 憲	経済学部学生係長	富山商船高等専門学校学生課教務係長
"		松 島 珠 喜	附属図書館情報管理課	富山医科薬科大学教務部図書課情報管理係	
"		釜 谷 充 哉	施設課	金沢大学施設部建築課建築第一係	
"		城 村 浩 司	工学部	富山工業高等専門学校学生課教務係	
"		寺 林 真佐美	工学部	富山商船高等専門学校会計課出納係	
"		三 室 龍一郎	工学部	国立立山少年自然の家庶務課会計係	
"		川 原 卯 吉	富山商船高等専門学校庶務課人事係長	総務部人事課職員係長	
"		川 邊 誠	体育局生涯スポーツ課登山研修所庶務係長	総務部研究協力課研究協力係長	
"		高 森 満	富山工業高等専門学校会計課総務係長	経理部契約室契約第四係長	
"		羽 広 孝 司	富山医科薬科大学総務部主計課総務係長	学生部学生課総務係長	
"		相 澤 伸 彰	富山商船高等専門学校学生課教務係長	学生部学生課教養教育係長	
"		泉 田 享 一	高岡短期大学事業課専門職員	学生部厚生課専門職員	
"		中三川 敏 之	高岡短期大学会計課司計係予算主任	経理部経理課支出係主任	
"		小 川 誠	高岡短期大学会計課施設係施設主任	施設課機械係主任	
"		林 秀 一	富山工業高等専門学校学生課教務係教務第一主任	学生部入試課入学試験係主任	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
転 任	12. 4. 1	船 崎 浩 之	国立山少年自然の家事業課業務係業務主任	人文学部・理学部総務第二係主任
	〃	新 井 慶 子	富山工業高等専門学校庶務課庶務係	学生部学生課
	〃	村 崎 美 紀	高岡短期大学学生課	学生部学生課
	〃	栗 林 裕 子	富山医科薬科大学教務部図書課情報管理係	附属図書館情報管理課
配 置 換	12. 4. 1	水 上 修 一	事務局長	金沢大学事務局長
	〃	竹 若 重 勝	附属図書館事務部長	山口大学附属図書館事務部長
	〃	神 野 政 幸	経理部主計課長	新潟大学経理部主計課長
	〃	芋 野 昭 作	施設課長	名古屋大学施設部建築課長
	〃	畑 田 健 二	厚生課長	室蘭工業大学学生課長
	〃	赤 松 一 良	入試課長	鹿児島大学医学部学務課長
	〃	坂 田 達 夫	鹿屋体育大学事務局長	事務局長
	〃	秦 文 男	庶務部長	総務部長
	〃	嶽 釜 康 雄	学生部次長	学生部長
	〃	山 本 宏	庶務部庶務課長	総務部総務課長
	〃	山 木 宏 明	庶務部人事課長	総務部人事課長
	〃	鈴 木 由 喜 男	国立妙高少年自然の家庶務課長	総務部研究協力課長
	〃	村 中 一 男	庶務部企画室長	総務部企画室長
	〃	愛 場 優 治	浜松医科大学総務部会計課長	経理部主計課長
	〃	安 部 和 憲	学生課長	学生部学生課長
	〃	小 越 信 行	茨城大学入試課長	学生部厚生課長
	〃	柳 瀬 邦 夫	留学生課長	学生部留学生課長
	〃	新 田 昌 六	教育学部事務長	人文学部・理学部事務長
	〃	中 川 巖	工学部事務長	教育学部事務長
	〃	中 田 孜	人文学部・理学部事務長	工学部事務長
	〃	前 田 邦 樹	庶務部庶務課課長補佐	総務部総務課課長補佐
	〃	雁 田 彰	入試課専門員（入学選抜担当）	総務部総務課専門員（企画調査担当）
	〃	矢 後 和 子	庶務部人事課課長補佐	総務部人事課課長補佐
	〃	林 征 紀	庶務部人事課専門員	総務部人事課専門員
	〃	羽 根 俊	経済学部事務長補佐	総務部研究協力課専門員（産学連携担当）
	〃	杉 本 周 平	庶務部庶務課専門員（大学改革担当）	総務部企画室室長補佐
	〃	刈 賀 春 樹	経理部経理課課長補佐	経理部主計課課長補佐
	〃	松 下 義 春	人文学部・理学部事務長補佐	経理部経理課課長補佐
	〃	北 川 功	庶務部企画室室長補佐	経理部契約室室長補佐
	〃	廣 田 浩	厚生課専門員（就職指導担当）	学生部学生課課長補佐
	〃	保 正 邦 久	学生課課長補佐	学生部厚生課課長補佐
	〃	能 登 功	留学生課専門員（留学生担当）	学生部厚生課専門員（就職指導担当）
	〃	土 肥 隆 三	庶務部企画室専門員（企画調査担当）	学生部入試課専門員（入学選抜担当）
	〃	清 水 寛	人文学部・理学部事務長補佐	学生部留学生課専門員（留学生担当）
〃	近 岡 忠 夫	教育学部事務長補佐	人文学部・理学部事務長補佐	
〃	真 田 敏 江	庶務部庶務課専門職員（企画調整担当）	総務部総務課専門職員（事務組織改革担当）	
〃	向 雅 己	庶務部庶務課庶務係長	総務部総務課庶務係長	
〃	酒 井 利 満	庶務部庶務課学事調査係長	総務部総務課法規係長	
〃	赤 井 弘 人	庶務部企画室専門職員	総務部総務課大学開放係長	
〃	太 田 則 春	庶務部人事課専門職員	総務部人事課専門職員	
〃	櫻 井 雅 和	庶務部人事課専門職員	総務部人事課専門職員	
〃	白 山 一 男	庶務部人事課任用係長	総務部人事課任用係長	
〃	松 本 修 一	庶務部人事課給与係長	総務部人事課給与係長	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	12. 4. 1	今 井 稔	工学部専門職員	総務部研究協力課専門職員
	〃	作 井 功	庶務部人事課職員係長	総務部研究協力課国際交流係長
	〃	高 塚 清 文	庶務部庶務課技術専門職員	総務部研究協力課技術専門職員
	〃	横 山 正 弘	厚生課専門職員	総務部企画室専門職員 (自己点検担当)
	〃	堀 和 實	庶務部庶務課文書係長	総務部企画室専門職員
	〃	朝 野 真	庶務部企画室企画係長	総務部企画室大学改革係長
	〃	高 邑 英 市	経理部経理課出納係長	経理部主計課総務係長
	〃	友 坂 義 一	施設課企画係長	経理部主計課司計係長
	〃	湊 馨	経理部経理課専門職員 (契約担当)	経理部経理課収入係長
	〃	河 上 孝	経済学部会計係長	経理部経理課支出係長
	〃	江 藤 憲 和	庶務部企画室専門職員	経理部経理課共済組合係長
	〃	牧 石 信 康	経理部経理課情報処理係長	経理部経理課情報企画係長
	〃	塚 田 健 夫	経理部経理課用度係長	経理部契約室契約第一係長
	〃	地 崎 昇	人文学部・理学部経理係長	経理部契約室契約第二係長
	〃	能 手 哲 治	工学部経理係長	経理部契約室契約第三係長
	〃	東 敏	経理部主計課専門職員 (予算分析担当)	施設課企画係長
	〃	高 邑 欣 市	庶務部企画室専門職員	学生部学生課専門職員
	〃	田 中 祥 男	学生課専門職員	学生部学生課専門職員
	〃	黒 田 芳 雄	入試課教務係長	学生部学生課教務係長
	〃	石 川 裕 史	厚生課専門職員	学生部厚生課専門職員
	〃	松 本 進	教育学部専門職員 (附属学校企画調整担当)	学生部厚生課専門職員
	〃	御 福 隆	厚生課専門職員	学生部厚生課専門職員
	〃	堀 周 一	厚生課専門職員	学生部厚生課専門職員
	〃	佐 野 勤	厚生課厚生企画係長	学生部厚生課厚生企画係長
	〃	川 上 重 信	入試課入学試験係長	学生部入試課入学試験係長
	〃	宮 越 謙 三	経済学部専門職員 (外国人留学生担当)	学生部留学生課専門職員
	〃	本 吉 友 治	学生課専門職員	学生部留学生課留学生係長
	〃	脇 坂 勝 人	附属図書館情報サービス課学術情報係長	附属図書館情報管理課図書情報係長
	〃	山 田 正 芳	附属図書館情報管理課図書情報係長	附属図書館情報サービス課学術情報係長
	〃	齋 藤 純 一	人文学部・理学部庶務係長	人文学部・理学部総務第一係長
	〃	藤 井 栄 吉	人文学部・理学部用度係長	人文学部・理学部総務第二係長
	〃	柴 田 利 治	人文学部・理学部学務第一係長	人文学部・理学部教務第一係長
	〃	湯 浅 健 一	人文学部・理学部学務第二係長	人文学部・理学部教務第二係長
	〃	大 聖 寺 一 孝	教育学部会計係長	教育学部専門職員 (企画調整担当)
	〃	門 前 剛 二	教育学部庶務係長	教育学部総務係長
	〃	安 西 修 三	教育学部学務係長	教育学部教務係長
	〃	岩 永 晴 雄	教育学部附属学校第一係長	教育学部専門職員 (附属学校企画担当)
	〃	石 坂 淳 子	教育学部附属学校第二係長	教育学部附属学校係長
	〃	大 場 和 夫	経理部経理課管理係長	経済学部専門職員 (企画調整担当)
	〃	宮 原 進	経済学部庶務係長	経済学部総務係長
	〃	新 出 信 幸	工学部用度係長	工学部専門職員 (企画調整担当)
	〃	谷 口 和 則	工学部庶務係長	工学部総務係長
〃	大 崎 秀 雄	留学生課留学生係長	工学部教務係長	
〃	山 本 徹	工学部庶務係人事主任	総務部総務課総務係主任	
〃	松 田 晃	庶務部人事課任用係主任	総務部人事課任用係主任	
〃	松 田 玲 子	庶務部人事課給与係第二主任	総務部人事課任用係主任	
〃	中 村 義 浩	庶務部人事課給与係第一主任	総務部人事課給与係主任	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	12. 4. 1	生 田 孝 行	教育学部庶務係庶務主任	総務部人事課職員係主任
	〃	荒 井 誠 一	工学部庶務係研究協力主任	総務部研究協力課研究協力係主任
	〃	笹 岡 博 史	庶務部庶務課学事調査係研究協力主任	総務部研究協力課研究協力係主任
	〃	石 塚 久 博	庶務部庶務課学事調査係学事調査主任	総務部研究協力課国際交流係主任
	〃	北 村 均	経済学部庶務係庶務主任	総務部企画室大学改革係主任
	〃	松 井 博 文	庶務部企画室企画係庶務主任	総務部企画室大学改革係主任
	〃	新 庄 忍	経済学部会計係経理主任	経理部主計課総務係主任
	〃	上 木 祐 一	経理部経理課給与係給与主任	経理部主計課監査係主任
	〃	尾 崎 美 幸	経理部経理課出納係出納第二主任	経理部主計課監査係主任
	〃	荒 木 義 弘	経理部主計課司計係予算第一主任	経理部主計課司計係主任
	〃	岩 城 稔	経理部主計課司計係予算第二主任	経理部主計課司計係主任
	〃	新 井 浩	経理部主計課管財係管財主任	経理部主計課管財係主任
	〃	村 道 俊 一	経理部経理課出納係出納第一主任	経理部経理課収入係主任
	〃	小 森 功	教育学部会計係経理主任	経理部経理課給与係主任
	〃	永 井 昭 光	教育学部附属学校第一係会計主任	経理部経理課給与係主任
	〃	木 下 晋	工学部用度係物品管理主任	経理部経理課給与係主任
	〃	山 田 勇 一	経済学部会計係用度主任	経理部経理課情報企画係主任
	〃	倉 田 実	入試課入学試験係入学試験主任	経理部経理課情報企画係主任
	〃	澤 崎 勝 彦	経理部経理課用度係用度主任	経理部契約室契約第一係主任
	〃	北 治 夫	経理部経理課情報処理係情報処理主任	経理部契約室契約第一係主任
	〃	武 本 光 雄	人文学部・理学部用度係用度第一主任	経理部契約室契約第二係主任
	〃	笹 岡 直 美	人文学部・理学部用度係用度第三主任	経理部契約室契約第二係主任
	〃	高 瀬 範 和	工学部用度係用度第一主任	経理部契約室契約第三係主任
	〃	野 澤 和 子	工学部用度係用度第二主任	経理部契約室契約第三係主任
	〃	細 田 和 義	教育学部会計係用度主任	経理部契約室契約第四係主任
	〃	藤 田 一 吉	施設課企画係企画主任	施設課企画係主任
	〃	森 田 昌 夫	施設課電気係電気第一主任	施設課電気係主任
	〃	林 英 則	施設課電気係電気第二主任	施設課電気係主任
	〃	佐久間 克 明	附属図書館情報管理課総務係年史編纂事務主任	学生部学生課総務係主任
	〃	山 田 豊	人文学部・理学部学務第二係教務第二主任	学生部学生課教務係主任
	〃	寺 林 忠 男	庶務部企画室企画係教養教育主任	学生部学生課教養教育係主任
	〃	坂 東 康 子	経済学部学生係学生主任	学生部厚生課厚生企画係主任
	〃	飯 野 るみ子	留学生課留学生係留学生主任	学生部留学生課留学生係主任
	〃	中 島 潤 子	附属図書館情報管理課図書情報係図書情報主任	附属図書館情報管理課図書情報係主任
	〃	尾 山 吉 昭	附属図書館情報サービス課情報サービス係情報サービス主任	附属図書館情報サービス課情報サービス係主任
	〃	大 島 千 春	人文学部・理学部庶務係庶務第二主任	人文学部・理学部総務第一係主任
	〃	牧 田 秀 晴	人文学部・理学部用度係用度第二主任	人文学部・理学部総務第一係主任
	〃	長 崎 宏 美	人文学部・理学部庶務係人事主任	人文学部・理学部総務第二係主任
	〃	光 地 浩 和	人文学部・理学部学務第一係教務第一主任	人文学部・理学部教務第一係主任
	〃	有 沢 隆 一	人文学部・理学部学務第一係教務第二主任	人文学部・理学部教務第一係主任
〃	嶋 山 節 子	人文学部・理学部学務第一係学生主任	人文学部・理学部教務第一係主任	
〃	光 澤 和 嗣	人文学部・理学部学務第二係教務第一主任	人文学部・理学部教務第二係主任	
〃	田 中 茂	人文学部・理学部学務第二係学生主任	人文学部・理学部教務第二係主任	
〃	佐 藤 修	教育学部学務係教務第二主任	教育学部教務係主任	
〃	山 本 悦 子	教育学部学務係学務主任	教育学部教務係主任	
〃	大 門 聡	教育学部学務係学生主任	教育学部教務係主任	
〃	高 尾 京 子	附属図書館情報サービス課参考調査係参考調査主任	教育学部附属学校係主任	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	12. 4. 1	森 田 智	経済学部教務係教務主任	経済学部教務係主任
	"	安 部 保 子	経済学部教務係学務主任	経済学部教務係主任
	"	武 田 正 夫	工学部庶務係庶務主任	工学部総務係主任
	"	松 田 義 弘	工学部経理係経理主任	工学部総務係主任
	"	小 林 司	工学部学務係教務第一主任	工学部教務係主任
	"	山 上 康 彦	工学部学務係教務第二主任	工学部教務係主任
	"	平 野 美智子	工学部学務係学生主任	工学部教務係主任
	"	谷 川 通	人文学部・理学部	総務部総務課
	"	穴 田 さおり	庶務部庶務課	総務部人事課
	"	本 澤 誉 子	教育学部	総務部人事課
	"	高 崎 淳 也	経理部経理課	総務部企画室
	"	橋 千 夏	庶務部庶務課	総務部企画室
	"	日 俣 詠里子	経理部経理課	経理部主計課
	"	串 田 純 恵	工学部	経理部経理課
	"	杉 田 昇	経済学部	経理部経理課
	"	室 智 子	教育学部	経理部契約室
	"	酒 井 勝 子	人文学部・理学部	経理部契約室
	"	川 成 淳 也	工学部	経理部契約室
	"	竹 島 勢都子	経済学部	経理部契約室
	"	中 波 憲 子	教育学部	経理部契約室
	"	大 川 純	教育学部	経理部契約室
	"	横 井 宏 正	庶務部企画室	学生部学生課
	"	浦 島 布美子	経済学部	学生部厚生課
	"	金 森 美枝子	工学部	学生部入試課
	"	梶 谷 理 香	人文学部・理学部	教育学部
	"	大 場 チイコ	庶務部庶務課電話交換手長	総務部総務課電話交換手長
	"	竹 林 唯 夫	教育学部自動車運転手	経理部契約室自動車運転手
	"	平 野 誠 一	経理部経理課自動車運転手	経理部契約室自動車運転手
退 職	12. 4. 1	高 松 典 子	教育学部会計係	平成12年 3月31日限り任期満了により退職
育児休業	12. 4. 1	室 智 子	教育学部会計係	職務復帰
併 任	12. 4. 1	坂 東 康 子	学生部厚生課厚生企画係主任	経済学部教務係主任
	"	村 崎 美 紀	学生部学生課	教育学部
	"	浦 島 布美子	学生部厚生課	経済学部
	"	金 森 美枝子	学生部入試課	工学部
	"	高 崎 淳 也	総務部企画室	学術国際局留学生課
	"	日 俣 詠里子	経理部主計課	学術国際局留学生課留学生交流政策室
	"	川 邊 誠	総務部研究協力課研究協力係長	体育局生涯スポーツ課登山研修所専門職員 (～12. 4. 30)
	"	山 田 勇 一	経理部経理課情報企画係主任	金沢大学経理部情報処理課
職務命令	12. 4. 1	安 部 和 憲	学生部学生課長	教養教育改革推進室長を命ずる
	"	赤 井 弘 人	庶務部企画室専門職員	主任専門職員を免ずる
	"	湊 馨	経理部経理課専門職員	経理部経理課専門員を免ずる
	"	田 中 祥 男	学生課専門職員	学生課専門員を免ずる
	"	横 山 正 弘	厚生課専門職員	主任専門職員を免ずる
	"	御 福 隆	厚生課専門職員	主任専門職員を免ずる
	"	宮 越 謙 三	経済学部専門職員	経済学部専門員を免ずる
	"	今 井 稔	工学部専門職員	工学部専門員を免ずる

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
職務命令	12. 4. 1	高 塚 清 文	総務部研究協力課技術専門職員	技術部第一技術班技術専門職員を免ずる 技術部第一技術班長心得を免ずる 技術部第一技術班長を命ずる
	〃	喜多野 一 幸	工学部	技術官とする 技術部第三技術班員を命ずる
採 用	12. 4. 1	阿 部 美 規		講 師 人文学部 (言語文化学科ヨーロッパ言語文化)
	〃	内木場 努		教 授 教育学部 (英語教育)
	〃	芝 垣 正 光		教 授 教育学部 (学校教育)
	〃	永 井 節 夫		助教授 教育学部 (数学教育)
	〃	岸 本 忠 之		講 師 教育学部 (数学教育)
	〃	坂 本 雅 士		講 師 経済学部 (経営法学科基礎法)
	〃	神 阪 盛 一 郎		教 授 理学部 (生物学科生体制御学)
	〃	リー イイン サンディ		助 手 理学部 (化学科反応物性化学) (~20. 3. 31)
	〃	川 畑 常 真		文部技官 工学部 (物質生命システム工学材料工学)
	〃	三 原 茂		教 諭 教育学部 (附属小学校)
	〃	萩 中 泰 弘		教 諭 教育学部 (附属小学校)
	〃	濱 谷 昌 代		養護教諭 教育学部 (附属小学校)
	〃	山 田 茂 晴		教 諭 教育学部 (附属中学校)
	〃	高 木 健 吉		教 諭 教育学部 (附属中学校)
	〃	廣 安 敏 美		教 諭 教育学部 (附属養護学校)
	〃	小 川 郁 子		教 諭 教育学部 (附属養護学校)
	〃	福 井 洋 美		教 諭 教育学部 (附属養護学校)
〃	高 畠 佳 江		教 諭 教育学部 (附属養護学校)	
〃	廣 田 仁 美		教 諭 教育学部 (附属幼稚園)	
昇 任	12. 4. 1	濱 名 正 道	助教授 教育学部 (数学教育)	教 授 教育学部 (数学教育)
	〃	西 村 秀 二	助教授 経済学部 (経営法学科基礎法)	教 授 経済学部 (経営法学科基礎法)
	〃	角 森 正 雄	助教授 経済学部 (経営法学科民事法)	教 授 経済学部 (経営法学科民事法)
	〃	戸 川 成 弘	助教授 経済学部 (経営法学科企業関係法)	教 授 経済学部 (経営法学科企業関係法)
	〃	内 田 康 郎	講 師 経済学部 (経営学科経営学)	助教授 経済学部 (経営学科経営学)
	〃	森 口 毅 彦	講 師 経済学部 (経営学科応用経営)	助教授 経済学部 (経営学科応用経営)
	〃	高 山 龍 太 郎	助 手 経済学部 (経済学科比較経済論)	講 師 経済学部 (経済学科比較経済論)
	〃	桑 井 智 彦	助 手 理学部 (物理学科物性物理学)	助教授 理学部 (物理学科物性物理学)
	〃	和 田 直 也	助 手 理学部 (生物圏環境科学科生物圏機能)	助教授 理学部 (生物圏環境科学科生物圏機能)
	〃	伊 藤 紀 男	助教授 工学部 (機械知能システム工学機械制御情報工学)	教 授 工学部 (機械知能システム工学機械制御情報工学)
	〃	山 崎 量 平	助教授 名古屋大学 工学部	教 授 工学部 (物質生命システム工学プロセス工学)
	〃	鈴 木 正 康	助教授 九州工業大学 情報工学部	教 授 工学部 (電気電子システム工学通信制御工学)
	〃	松 田 健 二	助 手 工学部 (物質生命システム工学材料工学)	助教授 工学部 (物質生命システム工学材料工学)
	〃	宮 武 滝 太	助 手 工学部 (物質生命システム工学応用化学)	講 師 工学部 (知能情報工学知能システム工学)
	〃	加藤 ジェーン	助 手 工学部 (知能情報工学科メディア情報工学)	助教授 名古屋大学 大学院工学研究科
	〃	草 開 清 志	講 師 工学部 (物質生命システム工学材料工学)	助教授 地域共同研究センター
	〃	中 村 優 子	助 手 工学部 (物質生命システム工学応用化学)	助教授 機器分析センター
〃	西 村 優 紀 美	講 師 保健管理センター	助教授 保健管理センター	
転 任	12. 4. 1	葉 柳 靖 子	助教授 人文学部 (ヨーロッパ言語文化)	助教授 名古屋大学 文学部
	〃	岡 安 隆	助教授 教育学部 (数学教育)	助教授 茨城大学 教育学部
	〃	松 川 滋	教 授 経済学部 (経済学科政策科学)	教 授 和歌山大学 経済学部
	〃	今 井 克 典	助教授 経済学部 (経営法学科企業関係法)	助教授 名古屋大学 大学院法学研究科

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
転 任	12. 4. 1	新 里 眞 男	初等中等教育局高等学校課教科調査官	教 授 教育学部 (英語教育)
	〃	雨 宮 洋 司	教 授 富山商船高等専門学校 国際流通学科	教 授 教育学部 (社会科教育)
	〃	佐 伯 眞 人	初等中等教育局視学官	教 授 教育学部 (附属教育実践総合センター)
	〃	會 澤 宣 一	助教授 静岡大学 工学部	助教授 工学部 (物質生命システム工学科応用化学)
配 置 換	12. 4. 1	塚 野 州 一	教 授 教育学部 (学校教育)	教 授 教育学部 (附属教育実践総合センター)
	〃	堀 田 龍 也	助教授 教育学部 (附属教育実践研究指導センター)	助教授 教育学部 (附属教育実践総合センター)
	〃	米 山 嘉 治	講 師 地域共同研究センター	講 師 工学部 (物質生命システム工学科応用化学)
降 任	12. 4. 1	室 橋 春 光	教 授 教育学部 (学校教育)	助教授 北海道大学 教育学部
退 職	12. 4. 1	瀧 澤 弘	教 授 教育学部 (英語教育)	平成12年3月31日限り停年退職
	〃	加 瀬 正 二 郎	教 授 教育学部 (英語教育)	〃
	〃	栗 原 幹 夫	教 授 教育学部 (数学教育)	〃
	〃	山 極 隆	教 授 教育学部 (附属教育実践研究指導センター)	〃
	〃	杉 本 啓 郎	講 師 教育学部 (技術教育)	〃
	〃	菅 井 道 三	教 授 理 学 部 (生物学科生体制御学)	〃
	〃	西 村 格	教 授 理 学 部 (生物圏環境科学科生物機能学)	〃
	〃	新 井 甲 一	教 授 工 学 部 (物質生命システム工学科材料工学)	〃
	〃	品 川 不 二 雄	助教授 工 学 部 (物質生命システム工学科材料工学)	〃
	〃	中 川 光 栄	教 諭 (教育学部附属幼稚園)	平成12年3月31日限り任期満了により退職
〃	チホデーエフ セルグイ グリゴリエヴィチ	教 授 工学部 (電気電子システム工学科電子物性デバイス学)	〃	
育児休業	12. 4. 1	河 崎 美 香	教 諭 (教育学部附属幼稚園)	職務復帰
併任終了	12. 4. 1	時 澤 貢	評議員	併任終了
	〃	鈴 木 敏 昭	評議員	〃
	〃	岡 村 信 孝	評議員	〃
	〃	鈴 木 孝 志	評議員	〃
	〃	小 谷 仲 男	評議員	〃
	〃	塚 野 州 一	評議員	〃
	〃	宮 崎 州 弘	評議員	〃
	〃	山 地 啓 司	評議員	〃
	〃	古 田 俊 吉	評議員	〃
	〃	駒 城 鎮 一	評議員	〃
	〃	松 川 滋	評議員	〃
	〃	廣 岡 公 夫	評議員	〃
	〃	岡 部 俊 夫	評議員	〃
	〃	金 森 寛	評議員	〃
	〃	宮 下 尚	評議員	〃
	〃	山 淵 龍 夫	評議員	〃
	〃	黒 田 重 靖	評議員	〃
	〃	能登谷 久 公	学生部長・評議員	〃
	〃	宗 孝 文	教育学部附属教育実践研究指導センター長	〃
併 任	12. 4. 1	能登谷 久 公	教 授 工学部	副学長・評議員 (～13. 6. 12)
	〃	小 澤 浩	教 授 人文学部	〃 (〃)
	〃	小 谷 仲 男	教 授 人文学部	評 議 員 (～14. 2. 19)
	〃	岡 村 信 孝	教 授 人文学部	評 議 員 (～14. 3. 31)
	〃	渡 邊 信	教 授 教育学部	〃 (〃)
	〃	駒 城 鎮 一	教 授 経済学部	評 議 員 (～13. 3. 31)
〃	渡 邊 義 之	教 授 理学部	評 議 員 (～14. 3. 31)	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
併 任	12. 4. 1	黒 田 重 晴	教 授 工学部	評 議 員 (～14. 3. 31)
	"	鈴 木 孝 志	教 授 人文学部	" (")
	"	山 地 啓 司	教 授 教育学部	" (")
	"	丹 羽 昇	教 授 経済学部	" (")
	"	岡 部 俊 夫	教 授 理学部	" (")
	"	佐々木 和 男	教 授 工学部	" (")
	"	安 藤 修 平	教 授 教育学部	教育学部附属小学校長 (～14. 3. 31)
	"	清 水 建 次	教 授 教育学部	教育学部附属中学校長 (")
	"	中 井 学	教 授 教育学部	教育学部附属養護学校長 (")
	"	原 稔	教 授 教育学部	教育学部附属幼稚園長 (")
	"	宗 孝 文	教 授 教育学部	教育学部附属教育実践総合センター長 (～12. 8. 31)
	"	中 村 剛	教 授 保健管理センター	保健管理センター所長 (～14. 3. 31)
	"	龍 山 智 榮	教 授 工学部	機器分析センター長 (～14. 3. 31)
	"	菅 谷 孝	教 授 理学部	理学部数学科長 (～13. 3. 31)
	"	濱 本 伸 治	教 授 理学部	理学部物理学科長 (")
	"	山 本 浩 司	教 授 理学部	理学部化学科長 (")
	"	山 田 恭 司	教 授 理学部	理学部生物学科長 (")
	"	清 水 正 明	教 授 理学部	理学部地球科学科長 (")
	"	井 上 弘	教 授 理学部	理学部生物圏環境科学科長 (")
	"	龍 山 智 榮	教 授 工学部	工学部電気電子システム工学科長 (")
	"	袋 谷 賢 吉	教 授 工学部	工学部知能情報工学科長 (")
	"	竹 越 栄 俊	教 授 工学部	工学部機械知能システム工学科長 (")
	"	小 平 憲 一	教 授 工学部	工学部物質生命システム工学科長 (")
	"	酒 井 富 夫	教 授 経済学部	環日本海地域研究センター (～13. 3. 31)
	"	森 岡 裕	教 授 経済学部	" (")
	"	堀 江 典 生	講 師 経済学部	" (")
"	米 原 俊 孝	助 手 経済学部	" (")	
職務命令	12. 4. 1	能登谷 久 公	教 授 工学部	学長補佐を免ずる
	"	小 澤 浩	教 授 人文学部	"
	"	龍 山 智 榮	教 授 工学部	機器分析センター長を免ずる
	"	小 澤 浩	副学長	教養教育実施機構長を命ずる
任 命	12. 4. 1	阿 部 謹 也	共立女子大学学長	運営諮問会議委員に任命 (～14. 3. 31)
	"	石 坂 誠 一	富山国際大学学長	" (")
	"	井 上 孝 美	放送大学学園理事長	" (")
	"	上 野 隆 三	㈱北日本新聞社代表取締役社長	" (")
	"	塩 井 外 喜 子	富山県婦人会会長	" (")
	"	中 尾 哲 雄	富山経済同友会代表幹事	" (")
	"	中 沖 豊	富山県知事	" (")
	"	橋 本 清	富山県教育委員会教育長	" (")
	"	本 多 正 道	富山県経営者協会会長	" (")
	"	山 田 圭 藏	北陸経済連合会会長	" (")
採 用	12. 4. 1	高 瀬 久 美 子		事務補佐員 (総務部総務課)
	"	中三川 眞知子		事務補佐員 (総務部総務課)
	"	三 浦 みより		事務補佐員 (総務部研究協力課)
	"	前 田 洋 美		事務補佐員 (総務部研究協力課)
	"	浅 畑 美 香 子		事務補佐員 (経理部主計課)
	"	榎 明 美		事務補佐員 (経理部経理課)

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	12. 4. 1	花 田 博 子		事務補佐員（施設課）
	〃	西 野 英 子		事務補佐員（学生部学生課）
	〃	横 江 厚 子		事務補佐員（学生部学生課）
	〃	増 田 信 子		事務補佐員（学生部学生課）
	〃	太 田 昭 子		事務補佐員（学生部学生課）
	〃	田 島 順 子		事務補佐員（学生部厚生課）
	〃	片 山 進		技能補佐員（学生部厚生課調理師）
	〃	山ノ下 久美子		事務補佐員（学生部留学生課）
	〃	藤 野 敏 子		事務補佐員（工学部）
	〃	柿 谷 紀代子		事務補佐員（工学部）
	〃	五十嵐 仁 子		事務補佐員（総合情報処理センター）
	〃	上 楽 由利恵		事務補佐員（総務部総務課）
	〃	増 川 吏英子		事務補佐員（経理部主計課）
	〃	佐 藤 優 子		事務補佐員（経理部経理課）
	〃	金 田 稔		技能補佐員（経理部契約室自動車運転手）
	〃	森 田 憲 治		技能補佐員（経理部契約室自動車運転手）
	〃	柳 原 一 雄		臨時用務員（経理部契約室作業員）
	〃	黒 畑 繁 盛		臨時用務員（経理部契約室作業員）
	〃	五十嵐 清 平		臨時用務員（経理部契約室作業員）
	〃	高 堂 弘		技能補佐員（施設課機械操作手）
	〃	村 井 由美子		臨時用務員（学生部学生課作業員）
	〃	木 地 紀 子		臨時用務員（学生部学生課作業員）
	〃	中 村 作 三		臨時用務員（学生部学生課作業員）
	〃	多 賀 健 治		臨時用務員（学生部学生課作業員）
	〃	福 島 誠 治		臨時用務員（学生部厚生課作業員）
	〃	坂 林 眞喜子		臨時用務員（学生部厚生課作業員）
	〃	川 淵 智 美		事務補佐員（学生部入試課）
	〃	並 木 三智子		臨時用務員（学生部留学生課作業員）
	〃	藤 田 淳 子		事務補佐員（附属図書館情報管理課）
	〃	藤 田 由 佳		事務補佐員（附属図書館情報管理課）
	〃	竹 澤 真 弓		事務補佐員（附属図書館情報管理課）
	〃	川 原 京 子		事務補佐員（附属図書館情報管理課）
	〃	寺 岡 千 栄		事務補佐員（附属図書館情報管理課）
	〃	串 田 小百合		事務補佐員（附属図書館情報サービス課）
	〃	安 部 公 子		事務補佐員（附属図書館情報サービス課）
	〃	高 瀬 雅 美		事務補佐員（附属図書館情報サービス課）
	〃	湯 野 秋 子		事務補佐員（人文学部・理学部）
	〃	藤 野 智 子		事務補佐員（人文学部・理学部）
	〃	上 野 美 幸		事務補佐員（人文学部・理学部）
	〃	横 川 み き		事務補佐員（人文学部・理学部）
〃	堀 晴 子		事務補佐員（人文学部・理学部）	
〃	田 中 常 達		臨時用務員（人文学部・理学部作業員）	
〃	高 橋 武 志		臨時用務員（人文学部・理学部作業員）	
〃	岡 田 佳 恵		事務補佐員（教育学部）	
〃	菊 池 さとみ		事務補佐員（教育学部）	
〃	佐 藤 末知子		事務補佐員（教育学部）	
〃	西 塚 麗 子		事務補佐員（教育学部）	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	12. 4. 1	山 中 順 子		事務補佐員（教育学部）
	”	中 西 義 夫		臨時用務員（教育学部作業員）
	”	中 川 孝 雄		臨時用務員（教育学部作業員）
	”	館 野 洋 子		臨時用務員（教育学部作業員）
	”	吉 村 徳 子		臨時用務員（教育学部作業員）
	”	小 橋 貢		臨時用務員（教育学部作業員）
	”	見 角 光 子		臨時用務員（教育学部炊婦）
	”	源甲斐美里		事務補佐員（工学部）
	”	江 川 秀 子		事務補佐員（工学部）
	”	吉 田 由香里		事務補佐員（工学部）
	”	加 藤 幸 子		事務補佐員（工学部）
	”	伊 東 孝 枝		事務補佐員（工学部）
	”	高 松 衛		事務補佐員（工学部）
	”	寺 林 昌 代		事務補佐員（工学部）
	”	前 川 清 徳		臨時用務員（工学部作業員）
	”	高 田 修		臨時用務員（工学部作業員）
	”	北 風 和 子		事務補佐員（地域共同研究センター）
	”	ジ ン イ ン		講 師（研究機関研究員）水素同位体科学研究センター（～13. 3. 31）
	”	ムウ ダオビン		講 師（研究機関研究員）水素同位体科学研究センター（～13. 3. 31）
	”	竈 宗 和		技能補佐員（研究支援推進員） （素同位体 科 研究センター）
”	西 田 洋 子		技能補佐員（水素同位体科学研究センター）	
退 職	12. 4. 1	上 樂 由 利 恵	事務補佐員（庶務部企画室）	平成12年3月31日限り退職
	”	増 川 史 英 子	事務補佐員（経理部主計課）	”
	”	佐 藤 優 子	事務補佐員（経理部経理課）	”
	”	黒 畑 繁 盛	臨時用務員（経理部経理課作業員）	”
	”	柳 原 一 雄	臨時用務員（経理部経理課作業員）	”
	”	五十嵐 清 平	臨時用務員（経理部経理課作業員）	”
	”	高 堂 弘	技能補佐員（施設課機械操作手）	”
	”	村 井 由 美 子	臨時用務員（学生課作業員）	”
	”	木 地 紀 子	臨時用務員（学生課作業員）	”
	”	中 村 作 三	臨時用務員（学生課作業員）	”
	”	多 賀 健 治	臨時用務員（学生課作業員）	”
	”	片 山 進	技能補佐員（厚生課調理師）	”
	”	福 島 誠 治	臨時用務員（厚生課作業員）	”
	”	坂 林 眞 喜 子	臨時用務員（厚生課作業員）	”
	”	川 淵 智 美	事務補佐員（入試課）	”
	”	並 木 三 智 子	臨時用務員（留学生課作業員）	”
	”	藤 田 淳 子	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	”
	”	藤 田 由 佳	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	”
	”	島 先 厚 至	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	”
	”	川 原 京 子	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	”
	”	竹 澤 真 弓	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	”
	”	寺 岡 千 栄	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	”
	”	岡 崎 亜 都 子	事務補佐員（附属図書館情報サービス課）	”
	”	串 田 小 百 合	事務補佐員（附属図書館情報サービス課）	”

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
退 職	12. 4. 1	安 部 公 子	事務補佐員 (附属図書館情報サービス課)	平成12年3月31日限り退職
	"	浜 浦 真由美	事務補佐員 (附属図書館情報サービス課)	"
	"	高 瀬 雅 美	事務補佐員 (附属図書館情報サービス課)	"
	"	田 中 亜 紀	事務補佐員 (附属図書館情報サービス課)	"
	"	湯 野 秋 子	事務補佐員 (人文学部・理学部)	"
	"	五十嵐 昭 美	事務補佐員 (人文学部・理学部)	"
	"	菅 野 充 加	事務補佐員 (人文学部・理学部)	"
	"	田 中 常 達	臨時用務員 (人文学部・理学部作業員)	"
	"	高 橋 武 志	臨時用務員 (人文学部・理学部作業員)	"
	"	山 本 芳 枝	事務補佐員 (教育学部)	"
	"	菊 池 さとみ	事務補佐員 (教育学部)	"
	"	佐 藤 末知子	事務補佐員 (教育学部)	"
	"	西 塚 麗 子	事務補佐員 (教育学部)	"
	"	山 中 順 子	事務補佐員 (教育学部)	"
	"	中 西 義 夫	臨時用務員 (教育学部作業員)	"
	"	中 川 孝 雄	臨時用務員 (教育学部作業員)	"
	"	見 角 光 子	臨時用務員 (教育学部炊婦)	"
	"	山 崎 みのり	臨時用務員 (教育学部作業員)	"
	"	館 野 洋 子	臨時用務員 (教育学部作業員)	"
	"	吉 村 徳 子	臨時用務員 (教育学部作業員)	"
	"	源甲斐 美 里	事務補佐員 (工学部)	"
	"	江 川 秀 子	事務補佐員 (工学部)	"
	"	竹 島 結実枝	事務補佐員 (工学部)	"
	"	竹 内 美 貴	事務補佐員 (工学部)	"
	"	吉 田 由香里	事務補佐員 (工学部)	"
	"	加 藤 幸 子	事務補佐員 (工学部)	"
	"	杉 木 衣 子	事務補佐員 (工学部)	"
	"	前 川 清 徳	臨時用務員 (工学部作業員)	"
	"	高 田 修	臨時用務員 (工学部作業員)	"
	"	陸 渭 明	教務補佐員 (工学部)	"
	"	北 風 和 子	事務補佐員 (地域共同研究センター)	"
	"	中 山 拓 也	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"
	"	沖 野 浩 二	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"
	"	園 田 敦	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"
"	湯 辺 美由紀	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"	
"	高 橋 純	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"	
"	立 川 智 之	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"	
"	布 村 紀 男	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"	
"	早 河 秀 章	技術補佐員 (総合情報処理センター)	"	
"	竈 宗 和	技能補佐員 (研究支援推進員) (酸素同位体科学研究センター)	"	
"	西 田 洋 子	技能補佐員 (研究支援推進員) (酸素同位体科学研究センター)	"	

学 内 諸 報

副学長に能登谷工学部教授、小澤人文学部教授が就任

平成12年4月1日付けで、能登谷久公工学部教授並びに小澤 浩人文学部教授が副学長に就任されました。任期は平成12年4月1日から平成13年6月12日まで。両氏の主な経歴及び抱負は次のとおりです。



能登谷副学長は、昭和36年3月に富山大学工学部を卒業後、同年4月に富山大学工学部助手に採用され、講師、助教授を歴任後、平成3年4月教授に昇任され、現在に至っています。

平成9年5月から学生部長に併任され、平成11年4月から学長補佐に就任されています。専門は生産精密加工学。富山県出身。

(就任の抱負)

この度、副学長を拝命することとなりました。学生部長としては、学生関連の会議をとりまとめることが本務でしたが、副学長となれば学長を補佐し、校務のほとんどに関わりを持つことになります。



小澤副学長は、昭和38年7月国際基督教大学教養学部を卒業、同46年3月東京教育大学大学院文学研究科修士課程を修了、同51年3月東京教育大学大学院文学研究科博士課程を単位取得退学後、同年4月富山医科薬科大学医学部助教授に採用され、平成元年4月富山大学人文学部教授に昇任され、現在に至っています。

この間、平成5年5月から同7年5月まで評議員を、同年5月から同9年5月まで人文学部長を、同年5月から同11年5月まで評議員を併任され、平成11年4月から学長補佐に就任されています。専門は近代日本宗教史。富山県出身。

身の凡庸を顧みれば、いささか荷が重いと考えましたが、奨める方々もあり、お受けする事態になりました。

本来、大学は教員の自由な研究と、学生に社会人・職業人あるいは研究者としての自立を促す教育の場と位置付けられておりましたが、周知のごとく、国を挙げての行政改革のあらしは国立大学をも巻き込み、大学の法人化は不可避的なものとなっております。

大学の法人化は、必ずしも独立採算性を要求されるものではないといわれておりますが、法人化の後には中期目標に基づいて中期計画を立案し、その実現への努力と成果に対して厳しい点検と評価を受けざるを得ない事態となってまいりました。

誠に非力ではありますが、将来の法人化への移行に備えて大学運営の透明性の確保、各分野の研究の活性化、並びに多様な学生に対応する教育の実施に向けて、地道な努力を重ねて参りたいと考えております。

(就任の抱負)

昨年4月、学長補佐を拝命したときは、任務の重さを思い、一期で辞めさせていただくつもりで、その旨を学長や一部の人々にも公言してきた。

しかし、たまたま担当することになった教養教育見直しの作業がはかどらず、それだけが心残り、熟考の末、あえて食言の罪を犯すことにした。

抱負については、昨年補佐就任の際、学報で述べたこと以上に付け加えることはないが、法人化に向けて、国立大学をめぐる状況がいよいよ風雲急を告げる中で、冷静な判断力だけは、失わずにいたいと思う。

教育学部附属小学校長に安藤教授が、中学校長に清水教授が 養護学校長に中井教授が、幼稚園長に原教授がそれぞれ就任

教育学部附属学校の校長及び園長の任期が平成12年3月31日をもって満了することに伴い、教育学部教授会は次期校長及び園長の選挙を行い、附属小学校長に安藤 修平教授、同中学校長に清水 建次教授、同養護学校長に中井 学教授、同幼稚園長に原 稔教授を選出し、平成12年4月1日付けで就任されました。清水教授及び原教授は新任、安藤教授及び中井教授は再任、任期は平成12年4月1日から2年間。



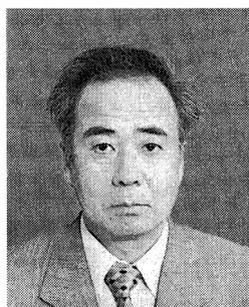
附属小学校長に再任された安藤教授は、昭和35年3月北海道学芸大学札幌分校を卒業後、公立学校教員を経て、同58年4月静修短期大学助教授、平成2年4月同短期大学教授、同3年4月文部省初等中等教育局主任教科書調査官、同4年4月同初等中等教育局視学官を併任、同8年4月富山大学教育学部教授となり、現在に至っています。担当講座は国語教育。北海道出身。

（就任の抱負）

教育とりわけ学校教育を取り巻く環境は極めて厳しいものがあります。大学改革の中で附属小学校として何をどうしなければならぬのか、大きな課題に取り組む必要を感じています。

このたび、附属小学校長に再選されましたので、今までの経験を基に、少しでも課題の解決に向かいたいと思っています。幸い附属小学校は、杉本副校長以下、全ての教職員が一つになって、新しい教育に向かって力強く日々の実践を重ねております。その成果は、教育研究発表会や出版物によって全国に向けて発信し続けております。今年も80名の新1年生が入学しました。可能性に満ち溢れキラキラと輝く子どもたちをどう導いていくか、難しくも楽しい日々が始まりました。

皆様方には、今後とも、変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。



附属中学校長に就任された清水教授は、昭和51年3月大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程を修了後、日本学術振興会奨励研究員を経て、昭和52年4月富山大学教育学部講師に採用され、同54年8月同学部助教授、平成3年4月同学部教授に昇任され、現在に至っています。担当講座は理科教育。富山県出身。

（就任の抱負）

いじめや不登校など学校教育における様々な問題をうけて、新教育課程の中心課題は「生きる力を育む教育」です。中学校においても教育の在り方が大きく変わろうとしている現在、附属学校の取組み方が注目されています。

さらに、附属学校と学部との連携が今まで以上に求められている中、より良い教員養成を目指して、附属学校としてどのような方策があるか検討しなければならないと思っています。教育実践研究にリーダーシップを取ることが求められる附属学校の使命は大きく、校長の職責の重大さを痛感しています。

どうぞ皆様方のご指導とご鞭撻をよろしく願います。



附属養護学校長に再任された中井教授は、昭和35年3月富山大学教育学部卒業後、同年7月富山大学教育学部助手に採用、同43年3月同学部講師、同47年1月同学部助教授、同60年4月同学部教授に昇任され、現在に至っています。担当講座は技術教育。富山県出身。

（就任の抱負）

近年の教育改善に関する動きは極めて急速です。しかしながら、社会風潮の改善がないと、効力に疑問が感じられます。教育改善に関連して、附属学校の在り方が問われており、教育学部と附属学校の連携の推進が求められています。

幸い附属養護学校では、教員の熱意により連携は密で、研究協力及び教育実習の実施のみでなく、教育学部生に対し、例えば年間述べ312人の学生に対する介護等体験

の実施、卒業論文及び修士論文の研究協力、ボランティア希望者の受け入れなどを行っています。

附属養護学校では、単に教育学部との連携を推進するのみでなく、教育学部と一体となって機能することを目

指し、教職を志望する学生に対して、教育実習期間中だけでなく、在学期間を通して有効に利用してもらうことを目指したいと考えています。

ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

容を正確に把握できるようにしたいと考えております。

中央教育審議会がこの4月に提出した「少子化と教育について」という報告の中では、幼稚園を一層重視することが述べられ、幼稚園の子育て機能を充実させる幼児教育振興プログラムの策定が求められています。また、地域社会が子どもを受け入れる寛容さを失っていることが少子化の要因の一つになっていると分析し、すべての高校で保育体験学習を行うことや、大学においては幼稚園・保育園での体験授業を教員養成課程だけでなく教養課程にも広げることなどが提案されています。

これらが、今後どのように具体化されていくのかに注目しながら、幼稚園のよりよい環境づくりのお役にたてればと考えておりますので、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



附属幼稚園長に就任された原教授は、昭和47年3月北海道大学大学院理学研究科博士課程単位取得後、昭和47年4月富山大学教育学部助手に採用、同63年11月同学部助教授、平成7年12月同学部教授に昇任され、現在に至っています。担当講座は理

科教育。神奈川県出身。

(就任の抱負)

考えもみななかった附属幼稚園長に選出されて、4月から園と学部を行ったり来たりしながら、幼稚園における活動の多様さとともにその効果が周りから見えにくいことに気が始めたところです。なるべく早く、仕事の内

叙

勲

4月28日付けで、平成12年春の叙勲が発表され、本学関係では次の方々が受章されました。ここに報告するとともに、心よりお祝い申し上げます。

名誉教授 山崎佳夫氏 勲三等旭日中綬賞



このたび、春の叙勲にあづかり、勲三等旭日中綬賞を拝受し、身に余る栄誉と考え、厚く感謝し、深く感激いたしております。

これもひとえに富山大学教職員の皆様の温かいご指導とご支援によるものと考えております。

去る5月11日、国立劇場にお

いて勲記と勲章の伝達を受け、次いで皇居に参上し、長和殿の春秋の間において天皇陛下に拝謁し、親しくねぎらいと励ましのお言葉を頂戴いたしました。感動の至りであります。

今後は、この栄誉をけがすことなく、ひたすら精進を重ね研鑽を積んでゆきたいと思っております。

終わりに、富山大学の益々のご発展を切に祈念いたします。

名誉教授 泉 敏郎氏 勲三等瑞宝章



去る5月11日勲三等瑞宝章の伝達を国立劇場において受け、次いで皇居に参内いたしました。

天皇陛下に拝謁する栄誉に加え、お言葉まで賜り、感激の極みでございました。

富山青年師範学校、富山大学と永きにわたり勤務した後、停

年後は北陸大学に5年間勤務いたしました。また、富山大学停年後、金沢大学の非常勤講師として現在まで12年間勤務し、通算すると50年余の教員生活となりました。

この間、多くの教職員の皆様のご指導と、よい学生に恵まれたことを深く感謝いたしております。

終わりに、富山大学の益々のご発展を祈念いたします。

元事務局長 泉 寛清氏 勲四等旭日小綬章



この度、思いがけずに「勲四等旭日小綬章」を受章することになり、5月11日国立劇場で文部大臣より勲記の伝達を受け、続いて皇居内で天皇陛下の拝謁の栄に浴し感激しております。

私の国家公務員生活は、昭和21年より富山大学事務局長で退

職しました平成元年9月30日までの43年間です。健康に恵まれ、職場環境に恵まれ、良き上司、良き同僚、良き人達に囲まれて今日までできました。現在は、金沢工業大学に勤務しております。

これもひとえに富山大学の皆様のおかげと深く感謝いたしております。

富山大学名誉教授称号記授与式を実施

本年3月末をもって退官された加瀬正二郎氏、瀧澤 弘氏（以上元教育学部教授）、新井甲一氏（元工学部教授）の3氏に平成12年4月1日付けで本学名誉教授の称号を授与することが決定され、去る4月28日（金）学長室において、時澤学長から称号記が授与されました。

新たに名誉教授となられた3氏の本学におけるご功績は、次のとおりです。



名誉教授
加瀬 正二郎
東京大学大学院教育学
研究科修士課程修了
教育学修士

同氏は、昭和32年3月千葉大学教育学部を卒業後、千葉県公立学校教員に就任、その間、同39年3月東京大学大学院教育学研究科修士課程を修了し、同年4月大阪府公立学校教員を経て、同42年4月富山大学教育学部講師に採用、同45年11月同学部助教授、同57年4月同学部教授となり、平成12年3月31日限り停年により退職されました。

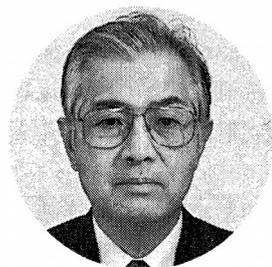
同氏は、本学着任以来33年にわたり英語科教育を担当し、厳正な教育姿勢を保ちつつも温情をもって学生の教育・指導にあたり、優れた卒業生を教育界を始め広く社会に送り出されました。

この間、昭和62年6月から平成4年3月まで、富山大学評議員として大学の管理運営に参画し、平成4年4月

から平成5年3月まで富山大学教育学部附属中学校長を併任し、教育実験校としての同校の教育と管理運営に寄与、平成5年4月から同7年3月までは教育学部長として学部の管理運営に尽力し、特に前学部長の後を受け大学院教育学研究科修士課程の設置を実現させ、学部の教育研究の発展に大きく貢献されました。

一方、同氏は英語教育の研究に努め、英語教育方法論の理論的検討を重ねるとともに、ディクテーション、クローズテスト、リスニングなど実際の教授方法の諸側面及び日本人学習者の英語学習の困難点について具体的な調査研究を通して明らかにすることに努められるとともに、辞典や中学校英語検定教科書の編集に参加し、英語教育の発展に大きく貢献されました。

学外では、日本英語教育学会理事、中部地区英語教育学会運営委員、日本英文学会中部支部理事、語学ラボラトリー学会中部支部運営委員などを歴任し、関係学会の運営発展に尽力、さらに、中学・高等学校の英語教育の研究会などに助言者として活躍するとともに、富山県英語教育振興会の設立に参画し、理事、副会長として県内の英語教育の振興に寄与されました。



名誉教授
瀧澤 弘
九州大学大学院文学
研究科修士課程修了
文学修士

同氏は、昭和32年3月富山大学文理学部を卒業、同35年3月九州大学大学院を修了後、同36年6月鳥取大学芸学部助手、同39年1月同学部講師、同42年4月同大学教養部講師、同年12月同大学教養部助教授、同49年5月富山大学教養部助教授、同53年同部教授を経て、平成5年4月同大学教育学部教授となり、同12年3月31日限り停年により退職されました。

同氏は、本学着任以来26年にわたって教養教育のドイツ語を担当し、また教育学部に配属後はドイツ語教科教育法をも教授し、厳正かつ懇篤な教育姿勢でもって、多くの有為な人材を育成されました。

この間、評議員、学生部長、附属図書館長の他、大学設置基準大綱化に係わる教養教育改革にあたっては全学の委員長を務めるなど、大学の管理運営に携わり、本学

の発展に多大な貢献を果たされました。

一方、学術研究においては、ドイツ文学、特に端正典雅な文体で人間の尊厳を謳い上げたドイツの現代作家ハンス・カロッサの研究に従事。主として、『幼年時代』『青春変転』『美しい惑いの年』『若き日の医師』など、この作家の自伝的作品の成立過程を、新資料や書簡をもとに検証することによって、二度にわたる世界大戦の過酷な時代状況やナチスの非人間的な政治体制のさなかにあつてなお、カロッサが医師として、また知識人としての良心を貫き、ゲーテ的なヒューマニズムを範とする高貴な人間性と深い内面性を湛えた古典主義的芸術に到達したことを明らかにされました。とりわけ、「カロッサの作品、書簡集におけるモンベルト像」と題する論文は、ナチス支配下のドイツ国内において、ユダヤ系詩人に対する敬愛の念を抱き続けたカロッサの抵抗を跡付けるものであり、この方面の文学研究に新しい地平を切り開かれました。

また、日本独文学会会員、日本独文学会北陸支部幹事、日本ゲーテ協会会員として、種々の研究活動や発表を行い、特に平成5年10月、本学を会場とする日本独文学会秋季研究発表会の開催に尽力されました。



名誉教授
新井 甲 一
埼玉大学文理学部
理学科卒業
工学博士

同氏は、昭和33年3月埼玉大学文理学部理学科を卒業後、同年4月同和金属工業会社に入社し、その後、同35年9月に富山大学工学部教務員、同39年4月同学部助手、同44年11月同学部講師、同48年4月同学部助教授を経て、同63年4月同学部教授に昇任され、平成12年3月31日限り停年により退職されました。

昭和54年11月には、「A STUDY ON THE LEACHING REACTIONS OF METAL SULFIDES」の研究論文により、京都大学から工学博士の学位を取得されました。

この間、本学において36年の永きにわたり、金属製錬工学及び材料化学の担当教官として、常に温厚篤実な態度で学生の教育・研究指導に当たられ、多数の優秀な人

材を育成されました。

研究面では、貴金属の高純度化プロセスの開発に関する研究、資源のリサイクルに関する研究及び金属材料の耐食性の設計と評価に関する研究等多岐にわたり、その研究成果は数多くの学術論文として発表され、学界や産業応用の発展に大きく関与され、また、昭和57年8月より約1年間文部省長期在外研究員として、カナダ国トロント大学に派遣され、「湿式製錬への微生物の適応に関する研究」を行い成果をあげられました。

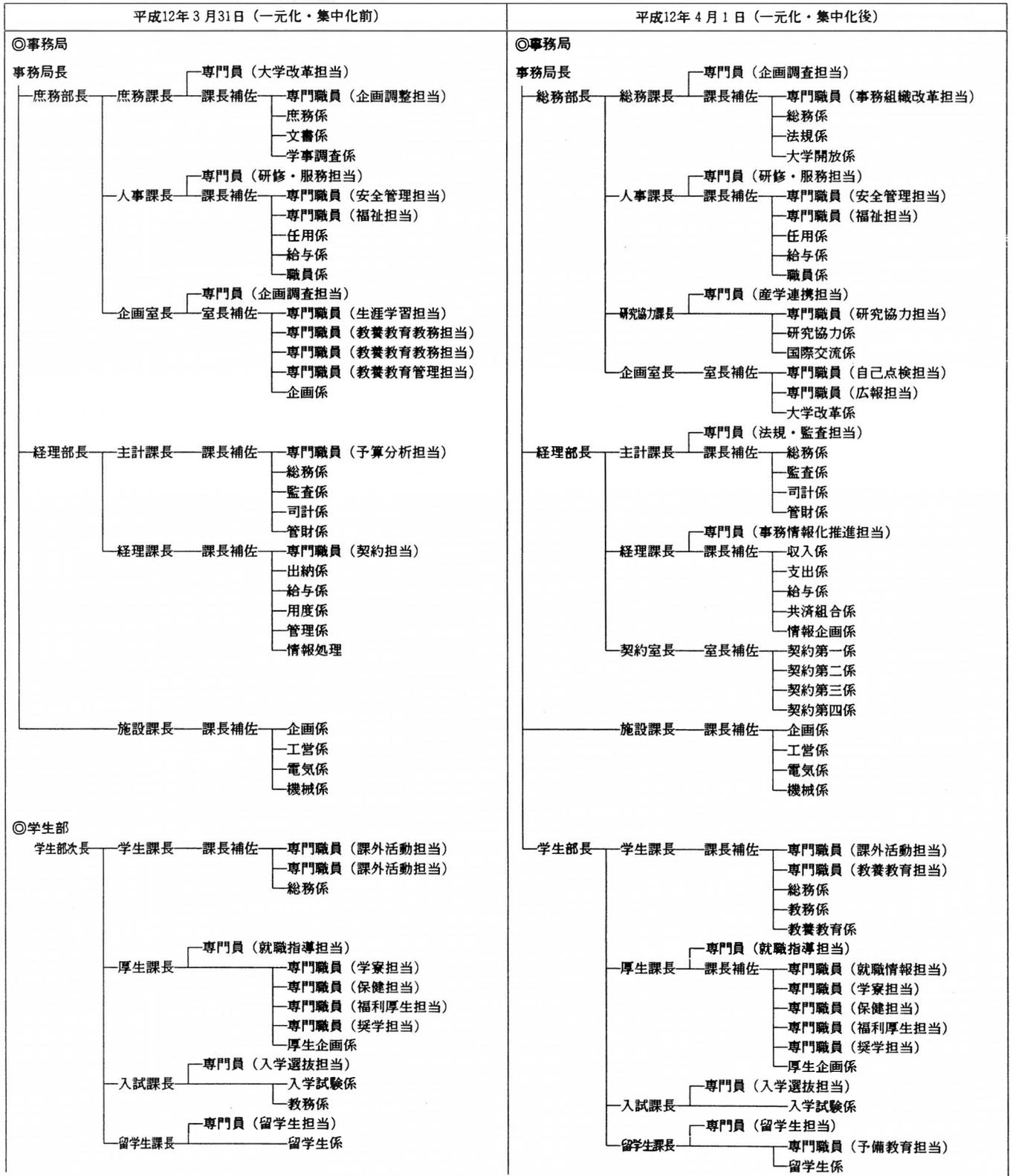
学内においては、学生生活協議会委員、大学院委員会委員、富山大学50周年記念事業委員会委員等を歴任し、さらに平成6年4月から平成7年3月まで、及び平成10年4月から平成11年3月まで物質工学科長を務められるなど大学・学部の発展・充実に貢献されました。

一方、学外においては、日本金属学会理事、同評議員、同分科会委員、同会報編集委員、日本学術振興会第69委員会委員、日本鉱業会誌編集企画委員などの要職を歴任され、学術の振興と地域の発展に寄与されました。

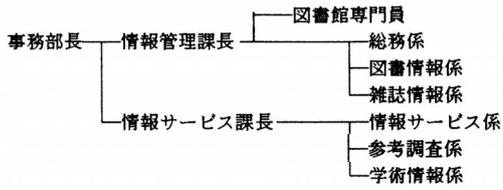
事務組織の再編整備を実施

本学では、平成12年4月1日から新しい事務組織により事務を実施することになりました。事務職員の定数削減が続く状況の中、国際化、情報化、産学連携など新しいニーズに対応するため、事務組織を抜本的に見直し、一元化、集中化が可能な事務は事務局に集約し、簡素化・能率化を図ることを基本に、事務職員が再配置されました。この事務組織の再編整備により、事務局には、総務部、経理部、学生部及び施設課が置かれ、学部固有の事務を除いた事務を一元的に担当します。一元化・集中化前後の事務組織図は次のとおりです。

事務組織図



◎附属図書館



◎学部

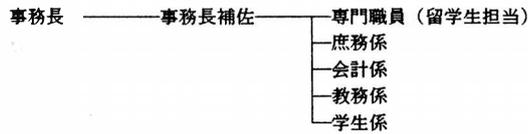
人文学部・理学部



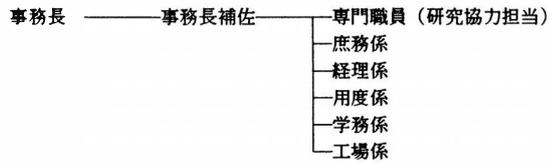
教育学部



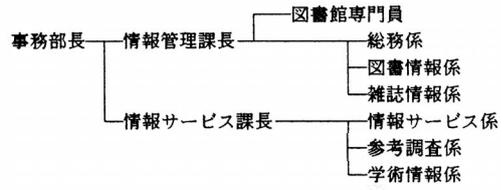
経済学部



工学部

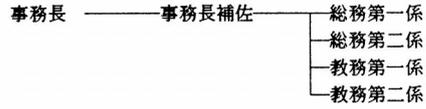


◎附属図書館

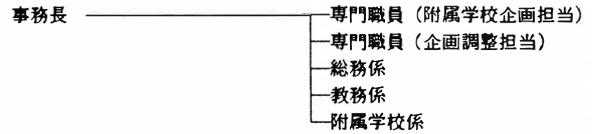


◎学部

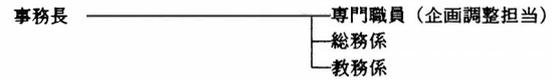
人文学部・理学部



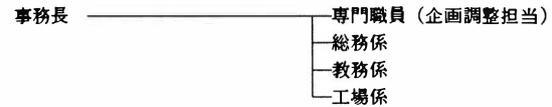
教育学部



経済学部



工学部



平成12年度新任教員説明会を実施

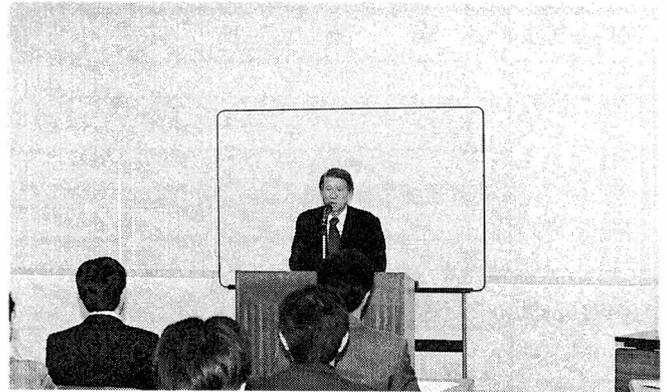
4月6日、黒田講堂会議室において、平成12年度新任教員説明会が開催されました。

この説明会は、本学の新任教員を対象とし、国立大学を取り巻く諸情勢、本学の教育、研究、管理運営体制及び諸課題等について説明し、大学運営について理解を深めることを目的としており、本年度は、昨年5月以降に着任された教員21人が参加しました。

午前の部では、時澤学長からの「本学の現状と課題」の説明をかわきりに、能登谷副学長の「本学の教育・厚生補導」、坂田事務局長の「大学改革等について」の説明が行われました。

午後の部は、小澤副学長からの「本学の教養教育」の説明をかわきりに、「セクシュアル・ハラスメント等の防止」（講師；淡川セクシュアル・ハラスメント等対応委員会委員長）、「本学の管理運営及びサービス」（講師；

秦総務部長）、「本学の予算及び会計制度」（講師；太田経理部長）について熱心な説明が行われました。参加者からは、的確な説明によりよく理解できたという声が多く、有意義な説明会となりました。



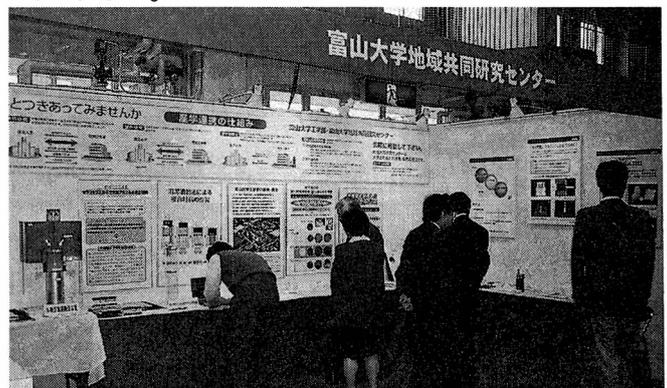
▲本学の現状と課題について説明する時澤学長

ME X金沢2000に出展

本学は、4月20日から22日までの間開催された第38回機械工業見本市金沢（ME X金沢2000）に出展しました。

工学部と民間企業との共同研究の成果として、有機ELマトリクスパネル（有機EL素子を短冊状にエッチングした透明電極基盤上に作製し、上部電極を透明電極と直交するように形成したもの）、有機EL素子（有機超薄膜を利用した面発光素子）、酸化物強誘電体・酸化物半導体薄膜作成技術、光触媒を利用した環境浄化型窓ガラス、溶湯噴射法による複合材料の作成技術などの最先端の新技术を実物やパネルで展示し、併せて工学部の教育研究概要をパネルで説明しました。また、地域共同研究センターが行っている産学連携の制度及び関係企業をパネルで展示しました。

本学のブースには、企業人、高校生など数多くの見学者が次々と訪れ、関係教官などの説明を熱心に聞き入っていました。



▲本学ブースの様

北信越地区国立大学図書館協議会総会を開催 —附属図書館—

第51回北信越地区国立大学図書館協議会総会が、4月27日、28日の2日間にわたり、本学の当番により開催され、当該地区の10大学30名が参加しました。

当日は、時澤学長から開会の挨拶が行われた後、昨年の国立大学図書館協議会理事会の報告、当該地区の事務部課長会議及び研修会の報告等があり、引き続き協議に移り、附属図書館の抱える諸課題について、2日間にわたり有意義な意見交換が行われました。

主な協議題として、①大学事務情報化と電子図書館化、



▲挨拶をする小谷図書館長

②教官当積算校費等の改善に伴う図書館予算の在り方、
③事務連絡における電子メールの活用、④国立大学図書館協議会会則の改正、⑤ILL包括規約、⑥共通閲覧証の廃止、⑦ファクシミリによる文献複写業務申し合わせ、

⑧第47回国立大学図書館協議会の総会・分科会討議テーマ、⑨文部大臣への要望事項などがあり、活発な議論が行われました。

(海) (外) (渡) (航) (者)

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	工学部	教授	佐々木 和 男	アメリカ合衆国	第9回IBNS会議に出席, 研究発表	12. 4. 4 ～ 12. 4. 11
	教育学部	教授	山西 潤 一	アメリカ合衆国	全米科学教育協会カンファレンスに出席, 発表, 資料収集	12. 4. 5 ～ 12. 4. 13
	工学部	教授	池 野 進	アメリカ合衆国	第7回アルミニウム合金国際会議に出席	12. 4. 6 ～ 12. 4. 17
	工学部	助手	松 田 健 二	アメリカ合衆国	第7回アルミニウム合金国際会議に出席	12. 4. 6 ～ 12. 4. 17
	工学部	教授	松 木 賢 司	アメリカ合衆国	第7回アルミニウム国際会議CIAA-71に出席, 発表	12. 4. 7 ～ 12. 4. 16
	工学部	助教授	石 原 外 美	アメリカ合衆国	アルミニウム合金の疲労に関する研究資料の収集	12. 4. 7 ～ 12. 4. 16
	工学部	助教授	山 口 昌 樹	アメリカ合衆国	ICBO国際会議に出席, 研究発表	12. 4. 8 ～ 12. 4. 14
	教育学部	教授	諸 岡 晴 美	イ ギ リ ス	マンチェスター2000第80回テキスタイル・インスティテュート国際会議に出席, 資料収集	12. 4. 12 ～ 12. 4. 21
	理学部	教授	清 水 正 明	大 韓 民 国	韓国資源環境地質学会において招待講演	12. 4. 12 ～ 12. 4. 17
	工学部	助教授	岡 田 裕 之	アメリカ合衆国	MRS国際会議に出席	12. 4. 25 ～ 12. 4. 29
海外研修	人文学部	助教授	岩 井 瑞 枝	フ ラ ン ス	ガリカニズムに関する研究・資料収集	12. 4. 22 ～ 12. 5. 12
	教育学部	助教授	堀 田 朋 基	フィンランド	張一短縮サイクル運動の疲労のメカニズムについての研究	12. 4. 23 ～ 12. 5. 11
	経済学部	助教授	小 野 理 恵	イ タ リ ア	ヨーロッパ公共選択学会に出席, 研究発表	12. 4. 24 ～ 12. 5. 4
	理学部	教授	小 松 美英子	アメリカ合衆国	ヒトゲの発生に関する研究	12. 4. 29 ～ 12. 5. 8

(外) (国) (人) (来) (訪) (者)

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入先	期間
馬 淑 萍 (中国)	北京物資学院大学 専任講師	日本企業の知識経済化戦略 の研究	経済学部助教授 清 家 彰 敏	12. 4. 12 ～ 13. 4. 11

職 員 消 息

《住所変更》

部 局	職	氏 名
人 文 学 部	文 部 教 官 (教 授)	鈴 木 信 昭
理 学 部	文 部 教 官 (講 師)	張 勁
経 済 学 部	文 部 教 官 (講 師)	石 田 眞 得
工 学 部	文 部 教 官 (教 授)	塩 澤 和 章
〃	文 部 教 官 (助 手)	山 根 岳 志
〃	事 務 補 佐 員	吉 田 由 香 里

《新任者住所》

部 局	職	氏 名
事 務 局	文 部 事 務 官 (事 務 局 長)	坂 田 達 夫
総 務 部	文 部 事 務 官 (職 員 係 長)	川 原 卯 吉
〃	文 部 事 務 官 (研 究 協 力 課 長)	鈴 木 由 喜 男
〃	文 部 事 務 官 (研 究 協 力 係 長)	川 辺 誠
経 理 部	文 部 事 務 官 (主 計 課 長)	愛 場 優 治
〃	文 部 事 務 官 (支 出 係 主 任)	中 三 川 敏 之
〃	文 部 事 務 官 (契 約 第 四 係 長)	高 森 満
〃	技 能 補 佐 員 (契 約 室)	金 田 稔
〃	技 能 補 佐 員 (契 約 室)	森 田 憲 治
学 生 部	文 部 事 務 官 (総 務 係 長)	羽 広 孝 司
〃	文 部 事 務 官 (総 務 係)	新 井 慶 子

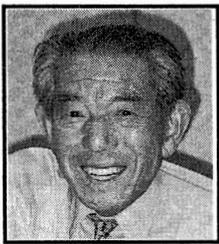
部 局	職	氏 名
学 生 部	文部事務官 (教養教育係長)	相 澤 伸 彰
〃	文部事務官 (厚生課長)	小 越 信 行
〃	文部事務官 (厚生課専門職員)	泉 田 享 一
〃	文部事務官 (入試課長)	大 内 知 行
〃	文部事務官 (入学試験係主任)	林 秀 一
施 設 課	文部技官 (施設課長)	中 島 省 吾
〃	文部技官 (機械係主任)	小 川 誠
人 文 学 部	文部教官 (講 師)	阿 部 美 規
〃	外国人教師	カザケービッチ・ ヴェチェスラフ
教 育 学 部	文部教官 (教 授)	内木場 努
〃	文部教官 (教 授)	芝 垣 正 光
〃	文部教官 (講 師)	岸 本 忠 之
〃	文部教官 (助教授)	永 井 節 夫
〃	文部教官 (教 授)	新 里 眞 男
〃	文部教官 (教 授)	佐 伯 眞 人
〃	文部教官 (教 授)	雨 宮 洋 司
〃	文部教官 (教 諭)	三 原 茂
〃	文部教官 (教 諭)	萩 中 泰 宏
〃	文部教官 (養護教諭)	濱 谷 昌 代
〃	文部教官 (教 諭)	山 田 茂 晴
〃	文部教官 (教 諭)	高 木 健 吉

部 局	職	氏 名
教育学部	文部教官 (教諭)	廣安敏美
〃	文部教官 (教諭)	小川郁子
〃	文部教官 (教諭)	福井洋美
〃	文部教官 (教諭)	高畠佳江
〃	文部教官 (教諭)	廣田仁美
〃	文部事務官 (教務係)	村崎美紀
〃	臨時用務員 (作業員)	小橋 貢
経済学部	文部教官 (講師)	坂本雅士
〃	文部事務官 (教務係)	高山恭一
理学部	文部教官 (教授)	神阪盛一郎
〃	事務補佐員	上野美幸
〃	事務補佐員	藤野智子
〃	事務補佐員	堀 晴子
工学部	文部教官 (教授)	唐 政
〃	文部教官 (教授)	山崎量平
〃	文部教官 (教授)	鈴木正康
〃	文部教官 (助教授)	會澤宜一
〃	文部技官 (教務職員)	川畑常真
〃	文部技官	喜多野一幸
〃	事務補佐員	寺林昌代
〃	事務補佐員	伊東孝枝

部 局	職	氏 名
工 学 部	事務補佐員	高 松 衛
附 属 図 書 館	文部事務官 (事務部長)	笹 川 郁 夫
”	文部事務官 (情報管理課)	栗 林 裕 子
”	文部事務官 (情報サービス課)	端 場 純 子

訃 報

4月に、名誉教授がお亡くなりになりました。
 ここにご報告するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



頭川 徹治 氏
 (名誉教授)
 4月23日逝去
 享年85歳

主 要 行 事

本 部

- 4月3日 辞令交付
- 4日 第1回運営会議
- 5日 第1回将来計画委員会
第1回セクシュアル・ハラスメント等対応委員会
- 6日 平成12年度新任教員説明会
独法化問題検討会
- 10日 平成12年度入学式(富山市芸術文化ホール)
教養教育/学生部オリエンテーション(富山市芸術文化ホール)
学生団体(文化系)オリエンテーション(富山市芸術文化ホール)
第3回教育研究基盤校費検討委員会

- 11日 学生団体(体育系)オリエンテーション(富山市芸術文化ホール)
第1回教養教育企画専門委員会
- 13日 第1回教養教育実施専門委員会
- 14日 第2回将来計画委員会
- 17日 第2回運営会議
第3回将来計画委員会
第1回放射性同位元素総合実験室運営委員会
第1回低温液化室運営委員会
- 18日 第1回事務協議会
- 19日 第1回大学教育委員会
第1回教養教育運営協議会
第1回国際交流委員会学術交流部会
- 20日 北陸地区予算担当者連絡会(金沢大学)
職員教養研修(放送大学受講)開講式

- | | | | |
|--------|---|-----|--|
| 20~21日 | 東海・北陸地区国立学校等会計系部課長会議
(福井大学) | 5日 | 学部入学試験委員会
学部教務委員会
附属小学校第1学期始業式 |
| 21日 | 第1回部局長会議
第1回評議会
第1回自己点検評価委員会
第1回環日本海地域研究センター運営委員会
全国就職指導ガイダンス(東京大学) | 6日 | 研究科委員会小委員会
学部将来計画委員会
附属小学校入学式
附属中学校及び附属養護学校第1学期始業式 |
| 21~22日 | 第3回大学評価セミナー(東京・都市センター
ホテル)
産学連携に関する説明会(東京医科歯科大学) | 7日 | 研究科委員会
教授会
人事教授会
介護等体験オリエンテーション
附属中学校及び附属養護学校入学式
附属幼稚園第1学期始業式 |
| 22日 | 北陸地区国立大学体育連盟運営協議会(福井
医科大学) | 10日 | 教育学研究科新入生オリエンテーション |
| 24日 | 第1回学生生活委員会
第1回学生生活委員会福利厚生部会
公務員採用試験説明会 | 11日 | 附属幼稚園入園式 |
| 25日 | 第2回国際交流委員会学術交流部会
公務員採用試験説明会 | 12日 | 学部新入生オリエンテーション |
| 26日 | 第1回国際交流委員会留学生部会
大学入試センター試験の実施に関する協議会
(大学入試センター) | 13日 | 前学期授業開始 |
| 27日 | 東海・北陸地区国立学校等施設担当部課長連
絡会議(文部省名古屋工事事務所) | 19日 | 学部将来計画委員会
新入生健康診断 |
| 28日 | 名誉教授称号記授与式
第1回国際交流委員会 | 20日 | 附属教育実践総合センター運営委員会 |

人文学部

- 4月5日 学部教務委員会
11日 学部学生生活・就職指導委員会
学部自己点検評価委員会
12日 学部図書委員会
学部情報処理委員会
教授会
学部国際交流委員会
19日 学部入学試験委員会
20日 学部教務委員会
26日 教授会
27日 学部入学試験委員会
28日 学部自己点検評価委員会
学部国際交流委員会

教育学部

- 4月4日 学部学生生活委員会

経済学部

- 4月11日 研究科委員会小委員会
学部教務委員会
12日 学部(昼間主)オリエンテーション
学部(夜間主)オリエンテーション
数学課外補講オリエンテーション
人事教授会
研究科委員会
教授会
学部総務委員会
14日 第3年次編入学生(昼間主)オリエンテーシ
ョン
第3年次編入学生(夜間主)オリエンテーシ
ョン

21日 学部教務委員会
福光高校生徒の学部見学
28日 学部入学試験委員会

理工学研究科博士後期課程部会
12日 学部オリエンテーション
18日 学部安全委員会
19日 学部就職指導委員会
24日 学部電子広報委員会
25日 学部入学試験検討委員会
学部教務委員会
26日 教授会
専任教授会
理工学研究科博士前期課程工学部会
理工学研究科博士後期課程部会
28日 工学教育協会富山県支部幹事会

理 学 部

4月4日 理工学研究科博士前期課程理学部会教育委員会
5日 学科長会議
学部安全管理委員会
7日 学部広報委員会
理工学研究科博士前期課程理学部会
教授会
人事教授会
学部安全管理委員会排水安全専門委員会
11日 学部自己点検評価委員会
理工学研究科博士後期課程部会
21日 学部就職指導委員会
25日 学部教務委員会
26日 学部広報委員会
学部安全管理委員会動物実験安全専門委員会
学部入試委員会
理工学研究科博士後期課程部会
27日 学部学生生活委員会、総務委員会及び交通指導員との合同会議
学部学生生活委員会
28日 学部施設委員会
学部施設委員会ガラス工作室運営専門委員会

附 属 図 書 館

4月20日 平成12年度第1回富山大学年史編纂委員会
27～28日 第51回北信越地区国立大学図書館協議会（高志会館）

地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー

4月6日 第1回運営委員会

留 学 生 セ ン タ ー

4月17日 外国人留学生日本語研修コース第2期開講式

水 素 同 位 体 科 学 研 究 セ ン タ ー

4月24日 第1回専門委員会（持ち回り）
放射線業務従事者に対する健康診断
25日 教育訓練

工 学 部

4月7日 学部教務委員会
11日 教授会
専任教授会
工学研究科委員会
理工学研究科博士前期課程工学部会
工学研究科博士後期課程委員会

機 器 分 析 セ ン タ ー

4月17日 第1回運営委員会

資

料

平成12年度富山大学入学者数一覽

(平成12年4月10日)

(学部)

学部	学科(課程)	入学者数	
人文学部	人文学科	67 (1)	
	国際文化学科	54 (4)	
	言語文化学科	85 (2)	
	計	206 (7)	
教育学部	学校教育教員養成課程	109	
	生涯教育課程	41	
	情報教育課程	32	
	計	182	
経済学部	昼間主コース	経済学科	159 (2)
		経営学科	130 (8)
		経営法学科	100
	夜間主コース	小計	389 (10)
		経済学科	22
		経営学科	20
		経営法学科	20
	理学部	小計	62
		計	451 (10)
		数学科	50
物理学科		41	
化学科		36	
生物学科		37	
工学部	地球科学科	40	
	生物圏環境科学科	31	
	計	235	
	電気電子システム工学科	93 (1)	
	知能情報工学科	83 (2)	
工学部	機械知能システム工学科	99 (3)	
	物質生命システム工学科	164 (1)	
	計	439 (7)	
	合計	1,513 (24)	

(大学院)

研究科(課程)	専攻	入学者数
人文科学研究科 (修士課程)	文化構造研究専攻	10 (2)
	地域文化研究専攻	6 (1)
	計	16 (3)
教育学研究科 (修士課程)	学校教育専攻	8
	教科教育専攻	24
経済学研究科 (修士課程)	計	32
	地域・経済政策専攻	8 (5)
	企業経営専攻	12 (4)
理工学研究科 (博士前期課程)	計	20 (9)
	数学専攻	9
	物理学専攻	12 (1)
	化学専攻	19
	生物学専攻	18 (1)
	地球科学専攻	8
	生物圏環境科学専攻	6
	電子情報工学専攻	72 (6)
	機械システム工学専攻	36 (2)
	物質工学専攻	29
	化学生物工学専攻	27 (1)
	小計	236 (11)
	理工学研究科 (博士後期課程)	システム科学専攻
物質科学専攻		5 (1)
エネルギー科学専攻		4
生命環境科学専攻		7 (1)
理工学研究科 (博士後期課程)	小計	22 (6)
	計	258 (17)
合計		326 (29)

(注) 表中の()は、外国人留学生で内数。

○入学者総数 1,906名

(学部第3年次編入学)

学部	学科等	入学者数	
人文学部	人文学科	5 (1)	
	国際文化学科	3	
	言語文化学科	2	
	計	10 (1)	
経済学部	昼間主コース	経済学科	2
		経営学科	3
		経営法学科	1
	夜間主コース	小計	6
		経済学科	1
		経営学科	3
		経営法学科	1
	理学部	小計	5
計		11	
数学科		0	
物理学科		2	
化学科		4	
生物学科		4	
工学部	地球科学科	3	
	生物圏環境科学科	1	
	計	14	
	電気電子システム工学科	6	
	知能情報工学科	8	
工学部	機械知能システム工学科	5 (1)	
	物質生命システム工学科	13	
	計	32 (1)	
	合計	67 (2)	



▲桜満開のキャンパス（事務局屋上から）

編 集 富山大学総務部企画室 〒930-8555富山市五福3190 TEL.(076)445-6029 FAX.(076)445-6033
印刷所 あけぼの企画株式会社 〒930-0031富山市佐吉町1-5-8 TEL.(076)424-1755 FAX.(076)423-8899